

## 2024年3月月次祭 大教会長挨拶

本日は、春らしい結構なお日柄をいただいて、皆さんにはそれぞれお忙しい中を、遠近を問わず3月の月次祭にご参拝をいただきまして、誠に有難うございました。また、日々はおちばと大教会へ心をつないで下さり、そして、併せて教祖百四十年祭に向かってもご丹精をいただき、重ねて有難うございます。

はじめに、教祖百四十年祭・教会長登殿参列として、今月の26日ご本部3月の月次祭に、城山から八名の教会長さんに参拝をしていただきます。この登殿参列は、教祖百四十年祭へ向かう三年千日の年祭活動が進められる中、全教会長が教会としての心定めと、日頃の活動を親神様・教祖にご報告を申し上げ、更なる決意を固め直して、今後も教会長の皆さんに、年祭活動を勇んでつとめていただきたいという上から、行われているものであります。この度、参拝される八名の教会長さんには、月次祭当日はご本部の神殿の結界の中で、かぐらづとめを間近で見ることができますので、かぐらづとめを拝しながら勇んでご参拝をいただき、そして、その勇みを自教会へ持ち帰って、今後の年祭活動へとつなげていただきたいと思ひます。

さて、来月の4月18日は教祖ご誕生祭、翌日の19日にはご本部の中庭にて、婦人会第106回総会が開催をされます。この間婦人会城山支部の活動として、18日の夕方より詰所にて十二下りの勤修を、19日の総会後には、真柱様のお言葉と婦人会長様のご挨拶を受けてのふりかえりや、ねりあいをさせていただくことになっています。

城山につながる婦人会の皆さんには、この機会に是非一人でも多くの方に、おちばにおかえりをいただきたいと思ひます。そして、おかえりいただいた際には、特にねりあいやふりかえりの時間を大事にしてもらい、形にはこだわらないようにして、今感じているありのままの互いの思いや気持ちを素直に出し合っ  
て、互いに励まし親睦を深められるような、笑いあふれる楽しい時間を過ごしていただきたいと思ひます。そして、おちばならではの心のお土産をいただいて、

それぞれの地元へと帰ってほしいと思います。どうか、城山につながる皆さんには、日頃教会やご家庭を、陰で支えてご苦労下さっているご婦人さん方を、この機会になんとかおちばへと送り出してもらいますことを、お願いさせていただきます。

話は変わりますが、現在コロナウイルスの感染もおさまってきており、普通の生活に戻りつつありますが、しかし、以前のコロナの影響の中で、私達の生活は大きく変わりました。通勤せずに自宅で仕事をするリモートワーク、登校せず自宅で教育を受けるオンライン授業により、地理的な制約や時間的制約がなくなりました。また、家族のみで行うお葬儀や結婚式が増え、会議や講演までインターネットを通じて行われるようになり、食事や買い物も、人との接触を避け、配達業者や通販を利用するようにもなりました。

一方で、家族と過ごす時間が長くなった。家で一緒に食事をしたり、子どもと接する時間が増えたということもありました。しかし、このように私達の生活が変わったのは、コロナが社会を良くした訳ではなく、コロナの節を通して、私達の考え方や時間の使い方が変わったからだと思います。

そこで、時間のことを改めて考えてみると、時間は命の単位と捉えることができ、人が出直した時「享年」いくつ、と年齢を書きますが、生きていた時間が命の一つの単位であると思います。そして、命の単位が時間とすれば、親神様からの借り物であるこの身体と命と同じように、時間も借り物であることに思い至ります。

そして、皆に平等に与えられている時間が、親神様からの借り物だと考えれば、今この瞬間を迎えられ生きていることは奇跡であり、人生とは奇跡の連続であることに気付かせていただき、感謝せずにはおられません。時間は貯めることも、人に譲ることもできません。誰でも1日24時間が与えられ、誰もが1日24時間しか使えません。与えられた時間は、親神様から全ての人達に平等に与えられた、チャンスと受け取ることができると思います。

只今の時句・今のこの時は、教祖の年祭活動の真ただ中にあるお互いであ

ります。親神様に与えられた今のこの時間を、どのように使ってどのようにつとめるかは、私達の考え方一つ、心一つであります。ですから、今お与えいただいているこの時間を、無駄にすることなく大切に有効活用をして、年祭活動を精一杯通らせていただきたいと思います。

最後になりますが、祭文でも申し上げましたように、明日は春の霊祭つとめさせていただきます。私達お互いが、今日の結構な姿をお見せいただいているのは、霊様の伏せ込みからいただいているお徳のお蔭であります。ですから、明日の春の霊祭を、霊様のご生前中のご功績に深くお礼を申し上げ、感謝の心で厳かに心一つにつとめたいと思いますので、今日の月次祭に続いてご参拝下さいますことをお願い申し上げて、本日の挨拶とさせていただきます。有難うございました。